

服従は救いの条件か？

- ・今日「救いには条件はない」はないという叫び
- ・イエス：マタイ 19:16-17 すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。
- ・キリストへの道 81 「とこしえの命を受ける条件は、私どもの祖先が罪に陥る前すなわちパラダイスにいた時と全く同じであって、それは、神のおきてに完全に服従すること、つまり完全に義であることであります。」
- ・Signs of the Times, 15 November 1899. 「絶対的な服従は救いの条件である。」

1. 律法を行うこと、服従は義とされ、救われる条件か？

ローマ 2:13 「律法を行う者が、義とされるからである。」

2. しかし、律法を行い、服従でき、条件を満たし得る人間はいるか？

ローマ 3:10-12 次のように書いてある、「義人はいない、ひとりもない。悟りのある人はいない、神を求め人はいない。

ローマ 7:18-24 「わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。もし、欲しないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。そこで、善をしようとするわたしに、悪がはいり込んでいるという法則があるのを見る。すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。わたしは、なんとというみじめな人間なのだろう。だが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。

ローマ 8:7,8 「なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。」

3. では、どこに我々の希望があるか？

ローマ 7:25 「わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。」

ローマ 8:1 「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。」

1. キリストの死と生涯による。ローマ 5:9,10

- 十字架の身代わりの死
- キリストの服従の生涯 ローマ 8:3-4

ヘブル 5:7-10 イエスは我々のために信仰によって律法を守り義の生活を送られた。

1 希望 9 「イエスの一生は、われわれもまた神の律法に従うことができるということを証明している。」

2. そのキリストの義を無償で与えられる。それは恵みの賜物である。ローマ 5:12-21

信仰によってその賜物を受け入れる者に、「力強く働く」聖霊が与えられ、律法の要求を満たすことができるようにして下さる。

ローマ 3:28 「わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである。

エペソ 2:9 「決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることはないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。」

エペソ 2:8 「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

● 人を救う信仰は「愛によって働く(行う)信仰」である。ガラテヤ 5:6

信仰は行いと共に働く。行いを伴わない信仰は死んだものである。ヤコブ 2:26

4. 信仰により、恵みによって救われたからと言って律法に服従しなくてもいいか？

ローマ 3:31 「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法は確立するのである。」

5. 信仰により、恵みによって救われたからと言って、罪を犯し続けてもいいか？

ローマ 6:1,2 「では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか。断じてそうではない。」

6. パウロの福音とは何と言われているか？

7. ローマ書の冒頭に何と言っているか？

ローマ 1:5 「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び別たれ、召されて使徒となったパウロから——この福音は、神が、預言者たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束されたものであって、御子に関するものである。御子は、肉によればダビデの子孫から生れ、聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた。これがわたしたちの主イエス・キリストである。わたしたちは、その御名のために、すべての異邦人を信仰の従順に至らせるようにと、彼によって恵みと使徒の務とを受けたのであり、あなたがたもまた、彼らの中であって、召されてイエス・キリストに属する者となったのである——」

8. ローマ書の締めくくりに何と言っているか？

ローマ 16:25 「願わくは、わたしの福音とイエス・キリストの宣教とにより、かつ、長き世々にわたって、隠されていたが、今やあらわされ、預言の書をとおして、永遠の神の命令に従い、信仰の従順に至らせるために、もろもろの国人に告げ知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを力づけることのできるかた」。

9. 福音は律法から逃げるのではなく、律法を喜ぶ！

詩篇 119:163 「わたしは...あなたのおきてを愛します。」

詩篇 119:167 「わが魂は、あなたのあかしを守ります。わたしはいたくこれを愛します。」

詩篇 119:174 「あなたのおきては私の喜びです。」

※ オネシモとピレモンの例

1 ヨハネ 5:3 「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。

10. 最後の真の教会はどんな使命が与えられているか？

黙示録 14:6-12 「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』。また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者』。ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある(欽定訳)』。

● イエスの信仰とはどんなものであったか？ ヘブル5:7-10 読もう！

11. 終りの時に、龍(サタン)がターゲットにする民はどんな民か？

黙示録 12:17 「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」

12. パウロの福音はどんなものであったか？

ローマ 1:16,17 「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである。」

- 信仰によるゆるし(義認)ークリスチャン生活の初めー外庭の経験
- 信仰による聖化 信仰によるゆるし(義認)の毎日の経験ークリスチャン生活の途中ー聖所の経験
- 信仰による完全 信仰によるゆるし(義認)の完成ークリスチャン生活の完成ー至聖所の経験
- こうして栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられていくー1 コリント 3:18

13. パウロと違った福音が今も説かれているだろうか？

ガラテヤ 1:6-10 「あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろむべきである。わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受け入れた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろむべきである。今わたしは、人に喜ばれようとしているのか、それとも、神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。もし、今もなお人の歓心を買おうとしているとすれば、わたしはキリストの僕ではあるまい。」

14. 「十字架を掲げて十戒を掲げるな」というのは、福音か？

大争闘下 192 「さまざまな教派の信仰深い人々が、この事実を認めて嘆いている。エドワード・A・パーク教授は、現代の宗教的危機を指摘して、次のように言っている。『危険の原因の1つは、説教壇から神の律法を強く主張しないことにある。かつては説教壇は、良心の声が響くところであった。……われわれの最も著名な説教者たちは、主の模範にならって、律法の戒めと警告とを強調することによって、彼らの

説教を驚くほど威厳のあるものにした。彼らは、律法は神の完全の写しであって、**律法を愛さない者は福音を愛していないという、二大真理**をくり返した。なぜなら**律法は、福音と同様に、神の真の品性を反映する鏡**だからである。この危険は、さらに次へと発展して、罪の害悪とその範囲、その恐ろしさなどを過小評価させるに至る。戒めが義であればあるほど、それに服従しないことははなはだしい悪なのである。……

上述の危険と密接に関係しているのが、**神の義を軽視する危険**である。**現代の説教の傾向**は、**神の義を神の慈愛から引き離して、慈愛を原則として高めるよりむしろ1つの感情に低下させている。新たな神学は、**神が結合されたものを分裂させた。神の律法は善か悪か。善である。それならば正義は善である。なぜなら、正義は律法を実施するものだからである。人間は、神の律法と正義を軽視し、人間の不服従の程度と恐ろしさを軽視する習慣から、罪の贖いのために備えられた恵みを過小評価する習慣に陥りやすい。』こうして人々は、福音の価値と重要性を忘れ、そしてまもなく、実質的に聖書そのものを放棄するようになる。」

大争闘下 209「**神の律法が、その正当な位置**に回復されて初めて、神の民と称する人々に、**初代教会の信仰と敬虔のリバイバルが起こり得る**のである。『主はこう言われる、「あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ』』（エレミヤ 6：16）。」

結論：

律法に従うことは救いの条件である。

しかし、人間だれも律法に従うことはできない。

御子、イエス・キリストが人間となり、我々のために信仰による義を実演された。

キリストの信仰は、愛によって働く(行う)信仰であった。

我々罪人に、イエス・キリストを信じる信仰によって無償でキリストの義が与えられ、救われる。

キリストの信仰と服従は我々のものとなる。

こうして我々は、救いの条件を満たすことができるようになる。服従は喜びとなる。律法は喜びとなる。

虹 139 ゆるすためです。

虹 127 みかみのおきて。